

週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると身体はダメージを受け続け、何らかの病気になるリスクが高くなります。なかでも意外なことに血管が傷む事を知っているでしょうか。具体的には下図にあるように、血管の壁にコレステロールなどがたまり、血液が流れにくくなったり、最悪の場合は止まってしまう“動脈硬化”と呼ばれる

症状が現れます。動脈硬化になる要因はいくつかありますが、喫煙も大きく影響すると言われています。

狭くなった血管に血液の塊(血栓)が詰まって血流が止まると、血液が届かなくなった細胞は死んでしまいます。もし、その箇所が心臓や脳だと命にかかわる一大事となります。

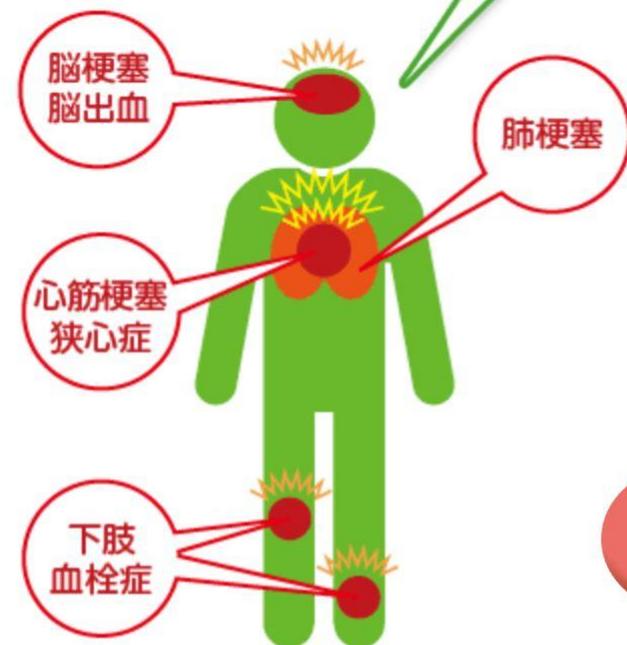
タバコを吸い続けると、ある日突然血管が詰まって、命を落とす可能性が大きくなるのです。怖いですね。

産業デザイン科 奥田 恭久

血栓症のリスク

血栓が詰まる場所によって、さまざまな急変する病気になります。がんとは違い、ある日、急に倒れてしまうケースが多く、兆候がみえにくいのも特徴です。

脳出血 (くも膜下出血) 脳の血管が破れてしまう病気。	心筋梗塞 心臓を取り巻く冠動脈の血流が止まる病気。
脳梗塞 脳の血管が詰まってしまう病気。	下肢血栓症 足への血管に詰まる病気。
狭心症 心臓を取り巻く冠動脈が狭くなって起きる病気。	肺血栓 (エコノミークラス症候群等) 下肢静脈に血栓ができ、この血栓が肺まで達して起こる病気。



重要な臓器の血管が詰まると、死に至る恐ろしい病気になります

